

中嶋彰子

Akiko Nakajima

●アーティスト

取材・文・写真=野村三郎

日本人初!

ウイーン私立音楽・芸術大学教授に就任



ウィーン私立音楽・芸術大学の学長室での辞令交付。左、中嶋彰子

■公演情報

- 第99回東響・東京オペラシティシリーズ 千住明／鍾まだか（台本）：オペラ《滝の白糸》
(日時・会場)8月20日14時・東京オペラシティ〈問合せ〉TOKYO SYMPHONYチケットセンター044・520・1511
- 秋のフェスティバル2017 ブラハへの旅
(日時・会場)9月2日16時・ふきのとうホール〈問合せ〉フリーダイヤル0120・12・6666
- 農業塾オペラハイライトvol.3《LOVE LOVE LOVE》
(日時・会場)9月17日16時・館林市三の丸芸術ホール〈問合せ〉FAX:0276・82・4104/noura.juku@gmail.com
- 群馬交響楽団
(日程・会場)12月16日・群馬音楽センター、17日・川口リリアホール〈共演〉高関健（指揮）
(日程・会場)12月18日・足利市民会館、23日・佐野市文化会館〈共演〉阪哲朗〈問合せ〉027・322・4316

中島彰子は父親の仕事の関係でオーストラリアのシドニーで育ち、当地のシドニー音楽大学を卒業後、シドニーのオペラハウスのコンクールで第1位を得てデビューした。その後1992年、イタリアのサンカルロ歌劇場でブッチーニ《ボエーム》のミミでデビュー、活動の場をヨーロッパに移し、インスブルック歌劇場の専属歌手を経て、1999年、オペレッタで有名なウイーン・フォルクスオーバーの専属となつた。そ

の折の活動はオペレッタだけでなく、多忙な演奏活動の合間に縫つて、こ

ういう活動をするというアイディアは中嶋らしい知性のもたらすものである。

中島彰子は父親の仕事の関係でオーストラリアのシドニーで育ち、当地のシドニー音楽大学を卒業後、シドニーのオペラハウスのコンクールで第1位を得てデビューした。その後1992年、イタリアのサンカルロ歌劇場でブッチーニ《ボエーム》のミミでデビュー、活動の場をヨーロッパに移し、インスブルック歌劇場の専属歌手を経て、1999年、オペレッタで有名なウイーン・フォルクスオーバーの専属となつた。そ

の折の活動はオペレッタだけでなく、多くのオペラの主役として注目を集めた。周知のようにオペレッタは歌うだけでなく、ドイツ語で話さず評価された結果であると述べた。

中嶋彰子は以前からその忙しい演奏活動の中で如何にして後輩に演奏能力向上の技術を伝えるべきか、と述べていた。それがこういう形で実現されたところで、最初は苦労したといふが、間もなく舞台でも流暢にドイツ語の会話をこなせるようになつた。彼女の抜群の歌唱力は論を俟たないが、彼女の優れている点は、語学力に秀でている点にある。これは歌手にとって欠かせない能力だ。こうして彼女の活動範囲はウイーンを中心にヨーロッパだけでなく、逆輸入の感じだが、我が国でも次第に広がつていった印象がある。

第14回出光音楽賞（2003年）を得た中嶋彰子が教育に乗り出したからといって、彼女が演奏活動から教育活動に重点を移したわけではない。漏れ聞くところによると、2017年8～9月だけでも、8月6日・群馬県大泉町大泉文化村での群馬交響楽団の県民コンサート「歌の力」、8月20日・東京オペラシティでの千住明のオペラ《滝の白糸》、9月2日札幌ふきのとうホール「秋のフェスティバル2017 ブラハへの旅」、9月19日群馬県館林市三の丸芸術ホールでの農業塾オペラハイライト《LOVE LOVE LOVE》といった具合に、ヨーロッパと日本を股にかけての活動が続く。これにウイーン音楽・芸術大学のレッスンも加わる。今まさに脂ののった時期である。中嶋彰子の演奏、教育両面での一層の活躍を期待したい。